

単元名 音のスケッチ(2)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) ラテンのリズムの特徴やその反復・重なりについて、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、音楽の仕組みを用いてリズム・アンサンブルをつくる技能を身に付けることができる。
- (2) ラテンのリズムや反復や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) ラテンのリズムの特徴を捉えたり、音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくったりする活動に興味をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

標準的な展開例

03070207_001

【教材名】まほうのチャチャチャ（歌唱 器楽 鑑賞）

(P. 48～P. 49)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、カウベル、ギロ、クラベス

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 5つのリズム・パターンに親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まほうのチャチャチャ」を鑑賞したり歌ったりする。 ★チャチャチャのリズムで遊ぼう ・ラテンのリズムや打楽器の響き、曲想の楽しさを感じ取って聴く。 ・範唱を聴いて曲を大まかに捉え、曲の進行を確認し、リズムにのって歌う。 <p>○5つのリズム・パターンを手拍子で打ったり、声で唱えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つずつ丁寧に確認したり、①～⑤を順に打ったり、ランダムに打ったり、①から順に重ねたりする。 <p>2 リズム・パターンを、「まほうのチャチャチャ」に合わせて打つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○①～⑤の中で自分が打ちたいリズムを一つ選ぶ。 ○選んだリズム・パターンを打ち、同じリズム同士で集まる。 <p>3 リズムを重ねたり、音楽の仕組みを用いたりして音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々なつなげ方や重ね方を試しながら音楽をつくる。 ○反復や音の変化などの音楽の仕組みを用いて音楽をつくる。 ○声や楽器での表現や打つ場所を変えるなどして、表現の幅を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽快なリズムにのった、楽しい曲想を感じ取らせる。 ・歌い出しの音程が大きく下がる部分は、ゆっくり歌って確認する。 ・繰り返されるリズムがあることや、多くの楽器が使われていることを前もって伝え、注意して聴くようにさせる。 ・リズムを感じ、体を動かしたり、かけ声を入れたりしながら聴くとよい。 ・5つのリズムが正確に打てるように、手拍子だけでなく声でも唱えるように繰り返し挑戦させる。 ・「学びリンク」の動画を活用するとよい。 ・速度や拍に合わせて表現させることを意識させる。 【評】ラテンのリズムの特徴やその反復・重なりについて、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせながらリズム打ちをする活動を通して「知識」を評価する。 ・5人程度のグループをつくり、パートに分かれて音楽づくりを行わせる。 ・歌と楽器のバランスに気を付けさせる。 ・掛け声を工夫させる。 ・可能な限り、他のグループと音が混ざらないように、練習場所を工夫する。 ・音楽の仕組みは児童の実態に応じて、教師から提示したり、児童が選択したりできるようにする。 ・音量、音のバランス、拍にのっているかなどに気を付けて聴き合うようにさせる。 【共通事項】リズム 反復 へん化 音の重なり 【評】ラテンのリズムや反復や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽づくりをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】音楽の仕組みを用いてリズム・アンサンブルをつくる活動を通して「技能」を評価する。 【評】ラテンのリズムの特徴を捉えたり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】